

インド金融政策（2022年9月）

利上げ終着点が上昇するも、景気への悪影響は限定的な可能性大

2022年10月3日

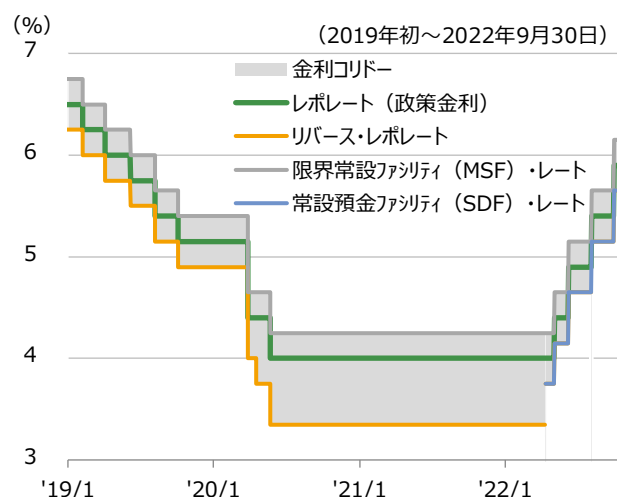
タカ派的な内容を受け、利上げサイクルは6.0%台後半で終了の見込み

9月30日（現地）、インド準備銀行（中央銀行）は金融政策決定会合で、市場予想通りに政策金利のレポレートを0.5%ポイント引き上げ、5.9%にしました【図表1】。発表内容は総じてタカ派と考え、当社の利上げ終着点の見通しを従来の6.0%前後から6.0%台後半へ上方修正します。

中銀は、インフレ見通しについて、2022年4-6月期をピークに低下傾向にある見方を継続しましたが、先行きに関してはインフレの新たな懸念材料を取り上げました。具体的には、①食品価格の上昇が小麦から米へ拡散していること、②一段の米ドル高を受け、ルピーの対米ドルレートが過去最安値を更新し【図表2】、輸入インフレが高まっていること等が含まれます。インフレ懸念のほか、中銀総裁が記者会見で2019年の実質金利が2%程度であったことに言及したこともあり、今般の利上げサイクルが中銀インフレ見通しの5.8%（2023年1-3月期）を顕著に上回る6.0%台後半まで続くとの見方が強まりました。

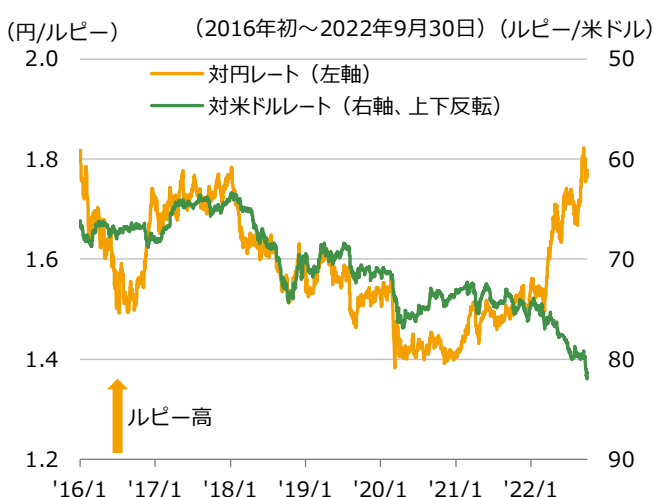
利上げ終着点の上昇観測にも拘らず、中銀は2023年4-6月期までの実質GDP成長率を軒並み引き上げ、特に2023年4-6月期については前年同期比+7.2%の高成長の見通しを示しました。通貨安に関しても、外貨準備の積み増しにより介入余力があるとみられ、過度に懸念する必要はないと思われます。不安定な海外金融市場の悪影響を警戒する必要がありますが、インドでは引き続き強い投資需要や家計消費を背景に、好景気が利上げ停止まで続く可能性が高く、株式市場などの金融市場の支えになると考えられます。

図表1 主要政策金利および金利コリドー



※金利コリドーとは、銀行間オーバーナイト金利の誘導目標レンジ。中銀は4月8日にコリドーの下限を変更。（出所）ブルームバーグ

図表2 インド・ルピーの推移



（出所）ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

この資料は情報提供を目的として作成したものであり、特定の商品の投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資判断の最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

金融商品取引法に基づきお客様にご留意いただきたい事項を以下に記載させていただきます。

むさし証券の概要

商号等：むさし証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

リスクについて

国内外の金融商品取引所に上場されている有価証券(上場有価証券等)の売買等に当たっては、株式相場、金利水準等の変動や、投資信託、投資証券、受益証券発行信託の受益証券等の裏付けとなっている株式、債券、投資信託、不動産、商品等(裏付け資産)の価格や評価額の変動に伴い、上場有価証券等の価格等が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 上場有価証券等の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者等の業務や財産の状況等に変化が生じた場合、上場有価証券等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。

◎ 新株予約権、取得請求権等が付された上場有価証券等については、これらの権利を行使できる期間に制限がありますのでご注意ください。

◎ 上場有価証券等が外国証券である場合、為替相場(円貨と外貨の交換比率)が変化することにより、為替相場が円高になる過程では外国証券を円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では外国証券を円貨換算した価値は上昇することになります。したがって、為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。

※ 裏付け資産が、投資信託、投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等である場合には、その最終的な裏付け資産を含みます。

※ 新規公開株式、新規公開の投資証券及び非上場債券等についても、上記と同様のリスクがあります。

手数料等諸費用について

当社取り扱いの商品等にご投資いただく場合

各商品毎の所定の手数料をご負担いただく場合がありますが、商品毎に異なるため、ここでは表示することができません。

また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

投資信託につきましては、手数料の他、信託報酬等・その他の費用(監査費用、運営・管理費用等)等を御負担いただきますが、これらの費用等は、事前に計算できませんので表示しておりません。

当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

【広告審査済】